

平成26年度 調査・研究計画書「生涯学習の振興に関する調査研究」

調査・研究の目的	市町村（広域を含む）やNPO・民間団体等との連携・ネットワークを構築しながら、地域の生涯学習の拠点を従来の社会教育関連施設だけではなく、学んだ成果を生かし新たな学習活動の広がりを創出するために、学校を「拠点」とした産学官の連携による学習プログラムを開発する。そのモデルプラン並びに成果を広く道内市町村等に普及することにより、本道の生涯学習及び社会教育行政推進に寄与することを目的に本調査研究を実施する。		
主題	地域の生涯学習推進に向けた産学官の連携による学習プログラムの開発に関する調査研究		
主題設定の理由	<p>社会の急激な変化に伴い、我が国の教育を取り巻く環境が大きく変化してきている。平成25年6月に策定された教育振興基本計画においては、社会のつながりの希薄化などが指摘される中において、「絆づくりと活力あるコミュニティ」の形成を図るために、学習活動を通じて「社会が人を育み、人が社会をつくる好循環システム」を構築していくことが重要であると示された。具体的には、学校や公民館等を地域コミュニティの拠点として位置づけ、学習することなどを通じ多様な主体によるネットワークを構築していくことで社会教育行政の再構築を図ることが大切であるとされている。</p> <p>こうした中、北海道教育推進計画においても青少年や家庭・地域における様々な課題に対し、地域住民の参画・協力を促進していくことや住民が地域の一員としての自覚を持ち、地域づくりの活動に主体的に参画できるよう産学官が連携・協力し地域づくりへの住民の参画・協働を促す社会教育活動を促進することが示されている。</p> <p>このような状況を踏まえ、北海道立生涯学習推進センターでは、平成24年度から3カ年計画で「地域の生涯学習推進に向けた産学官の連携による学習プログラムの開発に関する調査研究」に取り組んでいる。1年次は、理論研究及び先行事例の調査を行った。2年次は、むかわ町内の学校を拠点して産学官の連携による学習プログラムの開発に取り組んだ。3年次は広域性に視点をのこした産学官が連携した学習プログラムを開発し、学校を地域コミュニティの拠点として位置づけることや産学官が連携しながら学習プログラムを展開していくことが、本道の生涯学習及び社会教育行政推進に寄与すると考え、本主題を設定した。</p>		
内容	1 地域の生涯学習推進に向けた産学官の連携に関する文献等の収集及び分析	2 学校を生涯学習の拠点とし、産学官の連携による学習プログラムの開発	
方法	・これまでに示されている法律、答申、各種調査報告等について資料収集及び整理・分析する。	・平成26年度全道社会教育主事等研修会、各ブロック研修会、地域生涯学習活動実践交流セミナーの事例発表等により研究する。	・モデルプラン作成のため、留萌管内を対象として研究する。 ・調査研究報告書を作成し、HPに掲載するとともに、地域生涯学習活動実践交流セミナーで報告する。
計画	<p>4月 ○調査研究計画の検討 ○ヒアリング調査（随時）</p> <p>5月 ○調査研究計画の立案 ↓</p> <p>6月 ○文献、資料等の収集と理論研究（随時） ○モデルプラン実施管内（留萌管内関係者への依頼）</p> <p>7月 ○産学官関係者による事前打ち合わせ</p> <p>8月 ○産学官関係者による企画検討会議の実施</p> <p>9月 ↓</p> <p>10月 ○地域の生涯学習推進に向けた産学官の連携による学習プログラム開発に関する事業の実施（1回目）</p> <p>11月 ○地域の生涯学習推進に向けた産学官の連携による学習プログラム開発に関する事業の実施（2回目）</p> <p>12月 ○事例研究に基づいたモデルプランの検討、作成 ○調査研究結果の整理・分析 1月 ↓ ○調査研究報告書の作成</p> <p>2月 ○調査研究概要を実践交流セミナーで発表 ↓</p> <p>3月 ○調査研究報告書HP掲載</p>		
報告書の様式	報告書を作成し、PDF化し、Web（生涯学習ほっかいどう）で公開（関係者へデータを送付）		